

「火の用心だより」

第115号(令和6年10月号)

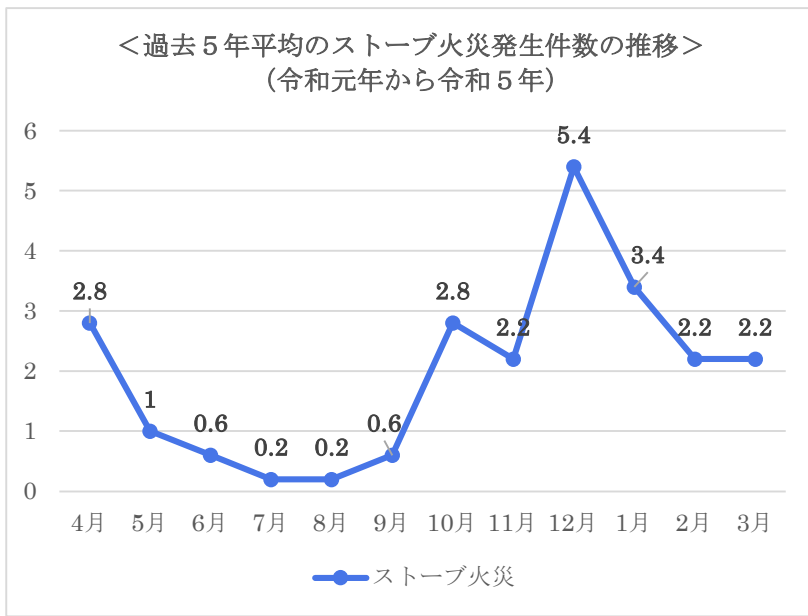
発行：札幌市消防局予防部予防課

秋の火災予防運動が始まります



令和6年10月15日(火)から同年10月31日(木)まで、秋の火災予防運動が実施されます。冬の訪れとともに、ストーブ火災が発生しやすい季節となりますので、ストーブの取扱いには十分気をつけましょう。

右のグラフは、過去5年間(令和元年から令和5年まで)平均のストーブ火災発生件数の推移を表したグラフです。10月頃から増加していることがわかります。



◎ストーブを安全に正しく使うための安全チェックポイント ～まずはご自分でできる点検を～

- 使用前には点検を行い、ストーブの各部に付着したほこりやゴミを取り除く！
- ストーブの上方で洗濯物を干さない！
- ストーブ周辺に布団や紙類などの燃えやすいものを置かない！
- 灯油ストーブには、絶対にガソリンを給油しない！
- 給油する際は、必ず火を消して、熱いうちは行わない！
- 古くなって色や臭いがついた不良灯油は使用しない！
- ストーブの上や、温風の当たる場所にスプレー缶を置かない！



※少しでも臭いや煙などの異常を感じたら、すぐに火を消して、専門の業者に連絡しましょう！

カセットボンベ・スプレー缶の取扱いに要注意！

北海道の夏は短いもので、今では朝晩に肌寒い日が増えてきました。

カセットコンロを使用し、美味しいお鍋を食べるご家庭も多いのではないのでしょうか？

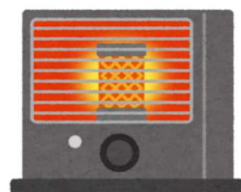
カセットボンベやスプレー缶の多くは可燃性ガスが含まれており、使用や保管の方法を誤ると大きな事故へと発展してしまいます。

実際に起こった事例をいくつかご紹介しますので、参考にして気を付けましょう。

事例1 <ストーブの熱で破裂>

・ストーブの近くに置いてあったスプレー缶が、^{ふくしゃねつ}輻射熱（※）によって暖められたことで膨張して破裂。放出された可燃性ガスに、ストーブの火が引火して火災となった。

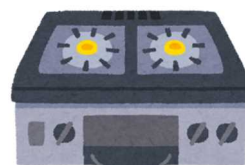
※^{ふくしゃねつ}輻射熱・・・暖房器具から発せられる赤外線を介して伝わる熱



事例2 <調理中にガス抜き>

・調理中に、コンロ付近でスプレー缶のガス抜きを行った。

放出されたガスにコンロの火が引火して、火災となった。



事例3 <ガス抜き後のスプレー缶処理>

・金属製のハンマーでカセットボンベの穴あけ作業を室内で行った。

ハンマーでたたいた際に発生した火花が可燃性ガスに引火して、火災となった。



カセットボンベ・スプレー缶の廃棄に際して注意すること！！

札幌市では、カセットボンベ等を廃棄する場合は、**無料**で収集しています。「燃えるごみ」の日に、中身を使い切って、穴をあけず、透明または半透明の袋に入れ、ごみステーションに出してください。

※ 指定ごみ袋の中には決して入れず、透明または半透明の別袋に入れて出してください。

※ 「燃やせないごみ」の日には出せません。

※ できるだけ一度に出す量を少なくしてください。

その他詳細は、札幌市環境局ホームページをご確認ください。

<https://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/spray.html>

※中身を使い切っていない又は中身が残っている「カセットボンベ・スプレー缶」は各清掃事務所、各消防署、各地区センター、各リサイクルセンターで引き取りをしていますので、お持ち込み下さい。

市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO



さっぽろ市
02-N0624-387
R6-2-312